

MeetingMinutes

会議名	2019年度 BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会(第2回)	記録	塚原
日時	2020年2月7日(金)10時~12時	確認・発行者	森谷
場所	コンフォート田町 会議室G(東京都港区芝5-26-24 田町スクエア)	発行日	2020年2月10日

出席者(順不同・敬称略) ただし、●は出席者、○は欠席者を示す

座長	● 森谷靖彦	● 座長補佐 村瀬弘幸(情報委員会WG主査)
委員	● 志手一哉(情報委員会委員長)	● 日本建築士会連合会:横松邦明
	● 沼本要七	● 日本ファシリティマネジメント協会:飯島勇、松岡辰郎
	● 加納恒也	○ BIMライブ러리技術研究組合:寺本英治
	● 大越 潤	● 日本建築士事務所協会連合会:加藤政弘
	● 菊野 格	● 建築設備技術者協会:山下浩一(代理:高比良直樹)
	● 田中洋介	● 日本不動産鑑定士協会連合会:立石正則
	● 比嘉俊介	● 建設物価調査会:足利全教
	● 須貝成芳	● building SMART Japan:三戸景次
	○ 中島 潤	● 日本建築構造技術者協会:馬場勇輝
	● 日本建築家協会:筒井信也	● 建築研究所:高橋 暁
	● 日本設備設計事務所協会連合会:竹馬章二	
オブザーバー	○ 日本ファシリティマネジメント協会:猪里孝司	● 建築・住宅国際機構:西野 加奈子、長瀬拓也
	● 不動産協会:久津輪太、古賀英司	● 建設物価調査会:岩井卓夫、丸木健
	● 建設業振興基金:帆足弘治	● 建築コスト管理システム研究所:岩松準
	● 日本空調衛生工事業協会:滝澤宣昭	● (株)日積サーベイ:高橋肇宏
国土交通省	○ 国土交通省 住宅局 建築指導課:田伏翔一	● (株)日建設計:青木 伸
	● 国土交通省 大臣官房官庁営繕部 計画課営繕積算企画調整室:高原洋介 整備課施設評価室企画専門官:宮内徹	○ (株)日本設計:岩村雅人 ○ (株)日本設計:吉原和正
報道機関	● 日刊建設工業新聞社:遠藤剛司	● 建通新聞社:金子由利亜
	○ 日刊建設産業新聞社:桶谷美千代	● 日刊建設通信新聞社:岡部敦己
事務局	● 事務局 塚原 均、野島武史	(以上、40名)
配布資料	No.	
	1	委員名簿
	2	2019年度第1回BSIJ協議会議事録(案)2019年12月4日版
	3	当協議会の方針について【おさらい】
	4	BSIJ情報委員会分類体系検討WG活動報告資料
5	分類体系に関する資料	

議事次第

NO	ITEM			ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE
	No.	FROM	TO				
1	報告事項						
	1	森谷	ALL	委員名簿および前協議事録確認等 資料1および2により資料の記載内容を確認した。	1 2		
2		志手	ALL	当協議会の方針について【おさらい】 前回説明した当協議会の方針について、そのポイントに絞って下記説明があった。 ・分類体系整備の考え方で「コト」(部分別、工種別、維持保全、資産管理等の内訳書中項目のイメージ)と「モノ」(BIMオブジェクト)の視点で考えることが重要である。 ・当協議会で合意を図りたい内容: 1)BIMオブジェクト(モノ)の分類体系=Uniclass2015の採用 2)コトに対応した分類体系のリスト化=部分別概算、工種別見積、FM(運用管理、維持保全)等 3)BIMを導入して建築プロセスにおけるコストマネジメントをどのように変えていけるかのあり方を示す。 ・下記のような意見および質疑応答があった。 1)菊野委員から建築プロセスのBIMを前提とした設計プロセスでのコスト計画の概算検証をWGでおこなっていく必要がある。 2)横松委員から会社ごとの設定のためテンプレートの配布は考えているか、との質疑があり、ウェブサイトでのBIMソフトのサービスは必要であるとの回答があった。 3)高橋(暁)委員からUniclass2015を採用した経緯について質疑があり、BIMオブジェクトに対応したテーブルを有しておりかつ設計プロセスに応じてテーブルを使い分けることができる分類体系がUniclass2015しかないため選択したことの説明があった。	3		

MeetingMinutes

会議名	2019年度 BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会(第2回)		記録	塚原	
日時	2020年2月7日(金)10時～12時		確認・発行者	森谷	
場所	コンフォート田町 会議室G(東京都港区芝5-26-24 田町スクエア)		発行日	2020年2月10日	
3	村瀬	ALL	<p>情報委員会分類体系検討WGの活動報告</p> <p>国交省の方針に基づく「分類体系の標準化」をコスト概算プランニングの観点から建築生産システムについて今後の世界標準を見据えて構築することを目指して下記作業を進めている。</p> <p>1)BIMフォーラムの考え方を援用して設計の初期段階(S0～S2)におけるコストマネジメントに必要な情報を整理している。</p> <p>2)Uniclass2015のSystemsテーブルの建築分野の翻訳(早めに公開して意見収集を図り精度を高めたい)</p> <p>3)分類体系を用いたコストマネジメントの検証として、S1,S2段階における概算を想定し、概算に必要な情報をBIMフォーラムのLODの定義を援用して検証している(Level of Costというような考え方)。</p> <p>4)S0, S1, S2の議論のベースとなるBIMモデルを作って、モノの分類(Uniclass2015)とコトの分類の組み合わせを試行している。現在はコトの分類に米国のUniFormatを例としてBIMを用いた部分別概算の可能性について検討を進めている段階。</p> <p>・下記のような質疑応答があった。</p> <p>1)立石委員より不動産分野において、坪単価のように複合単価等の考え方があるが、建築BIMでも考慮しているのか、との質疑があり、蓄積されたデータを概算に活用することは可能であり、作業としてもS2から順次、S0まで遡って整理しているとの回答があった。</p> <p>2)高橋(暁)委員より部屋ごとのグレードをBIMにより種別できるのか、との質疑があり、専用の閉じたスペースや公開したスペース等の区分けを行うことができる、との回答があった。</p>	4	
4	加納	ALL	<p>分類体系に関する資料について</p> <p>資料5により「コト」の分類体系資料を収集するために第1回会合後に当協議会出席者に呼びかけたところ、3団体から資料提供があったことの報告があった。さらに今後も資料収集を進め、BIMオブジェクトと関連づけてコストやLCCなどを概算するための分類(内訳の中項目レベル)を検討する事例として使用すると説明があった。</p>	5	
5	森谷	ALL	<p>今後の検討スケジュールについて</p> <p>国交省で2月5日に開催されたBIM/CIM委員会で、来年度の流れが概略示されたが、当協議会の親委員会であるBIM推進会議のスケジュールが未定である。次回、BIM推進会議が3月11日に開催され、その会議において他の部会も報告書を提出して現状が見えてくるかと思うので、それから来年度のスケジュールをお知らせしたいとの説明があった。</p>		
6	ALL	ALL	<p>その他(質疑応答)</p> <p>志手情報委員長から今回参加された各分野の委員に感想を個別に聞いたところ、概ね好意的な感想が寄せられ、当協議会に積極的に関わっていただくよう、森谷座長からお願いがあった。</p>		
2	<p>次回の開催予定</p> <p>建築BIM推進会議(親会議)の日程を鑑み、後日連絡する。</p>				